

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ 年始のご挨拶.....	1
➤ JRRN 活動報告.....	2
➤ 会員寄稿記事.....	3
➤ 研究・事例紹介.....	6
➤ 会議・イベント案内.....	7
➤ 冊子・ビデオ等の紹介.....	7
➤ 会員募集中.....	8

年始のご挨拶

2011年新年明けましておめでとうございます。
JRRN会員の皆様には日頃よりJRRNのネットワークの活動にご協力いただき感謝申し上げます。

JRRNでは、主な活動として、国内外の河川再生の話題を集約してみなさまにお知らせしている週2回の「ニュースメール」、活動報告や皆様からの投稿を掲載した月1回の「ニュースレター」の発刊、河川環境ミニ講座の開催、また、河川再生の事例収集、分析およびWebでの公開を中心に行っています。

これに加えて、JRRNはARRN(アジア河川・流域再生ネットワーク)事務局として活動しています。昨年9月には韓国で、ARRN運営会議やISE2010(生態水工学国際シンポジウム2010)の特別セッションの中で国際フォーラムをKRRN(韓国河川・流域再生ネットワーク)、CRRN(中国河川・流域再生ネットワーク)の協力を得て行いました。また、既に刊行している「アジアに適応した河川環境再生の手引き(ver.1)」について、CRRNやKRRNの協力を得ながら、河川再生事例を追加するなど改訂版の作業を進めています。

JRRNは現在、個人会員が約460名、団体会員が24団体で、特に個人会員はこの1年で約60名増加しています。JRRN事務局としては情報提供や会員どうしが有意義な交流ができるようにさらに努力していき

たいと考えています。

昨今のインターネット、ブログ、ツイッターなど情報社会の進展は著しいものがあり、発信したい情報は瞬時に全世界に伝えることができるようになりました。しかし、活用の方法によっては危険な事件もおこっています。私たちネットワークはこれらのことを十分認識して、ネットワークのメリットを活かして情報交流や調査研究活動を積極的に行い、河川再生の技術向上に貢献できるように引き続き工夫をしていきたいと思えます。

国内外の社会情勢は地球環境、国際情勢、少子高齢化、経済・財政問題などきわめて厳しいものがあります。たとえば河川分野でもダム見直し、異常気象対策などが議論となっています。私たちは大きな問題から小さな問題まで先の見えない樹海の中にいるようです。このような時こそ、既成概念やシステムに頼るのではなく、個人的な利害を超えて新しい流れを見つけていく必要があると思えます。

JRRNは皆様の協力を得て、多くの課題を乗り越えて河川再生の発展に貢献できるように努力していきますので皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

JRRN 事務局長 佐合純造

JRRN 活動報告

2010年のJRRN/ARRN 活動概要報告

2010年のJRRN及びARRNによる主な活動を以下の表で整理させて頂きました。

日本を含むアジアにおける河川・流域再生に関する情報・技術・経験の蓄積と共有、また交流機会の確保を目的として取り組んだ成果の一部を、今後とも皆様の活動にご活用頂ければ幸いです。



活動種別	活動成果	公開日/頻度	対象	分量
情報共有 基盤整備	JRRN ニュースレター	毎月・計 12 回	国内	8 ページ/月
	JRRN ニュースメール	週 2 ・計 102 回	国内	-
	JRRN ウェブサイト (日本語版)	週 2 回更新	国内	-
	JRRN ウェブサイト (英語版)	毎月更新	海外	-
	ARRN ニュースレター (英語版)	2010 年 11 月	海外	6 ページ
	ARRN ウェブサイト (英語版)	毎月更新	海外	-
情報・技術 蓄積	桜のある水辺風景 2010 写真集	2010 年 6 月	国内	11 ページ
	第 4 回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録 「川づくりと住民参画の目的、河川環境と治水、防災の接点」	2010 年 6 月	国内	21 ページ
	第 5 回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録 「流域連携による河川再生:イギリス・マージ川流域キャンペーン」	2010 年 7 月	国内	19 ページ
	第 13 回国際河川シンポジウム参加報告	2010 年 10 月	国内	26 ページ
	第 6 回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録 「中国の挑戦～気候変動下の洪水、干ばつ、水質汚染に向けて」	2010 年 11 月	国内	21 ページ
	アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 事例集	2010 年 12 月	海外	28 ページ
	ARRN ラウンドテーブル会議討議録 (英語)	2010 年 12 月	海外	13 ページ
	ARRN ラウンドテーブル会議討議録 (日)	2010 年 12 月	国内	13 ページ
	情報交換 機会提供	第 4 回 JRRN 河川環境ミニ講座開催 (2010 年 2 月 23 日) 講師: 山道省三 氏 (NPO 法人全国水環境交流会代表理事)		
第 5 回 JRRN 河川環境ミニ講座開催 (2010 年 5 月 11 日) 講師: Walter Menzies 氏 (英国マージ川流域キャンペーン理事)				
第 6 回 JRRN 河川環境ミニ講座開催 (2010 年 9 月 8 日) 講師: 徐宗学 氏 (北京師範大学教授・水科学研究院副院長)				
第 7 回 JRRN 河川環境ミニ講座開催 (2010 年 12 月 21 日) 講師: 莊曜成 氏 (台湾・經濟部水利署 河川海岸部科長)				
第 7 回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム (2010 年 9 月 14 日) 韓国・ソウル市				
パートナ シップ 構築 及び 広報活動	アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議 (2010 年 9 月 14 日) 韓国・ソウル市			
	2010 年度・河川技術に関するシンポジウムにて JRRN/ARRN 広報活動(2010 年 6 月 2 日～3 日)			
	JRRN 技術交流会: 中国・遼寧省大連市水務局(2010 年 6 月 11 日)			
	JRRN 技術交流会: 韓国・未来資源研究院(2010 年 7 月 6 日)			
	JRRN 技術交流会: 台湾・川人街～河川交流団(2010 年 8 月 16 日)			
	JRRN 技術交流会: 英国・リーズ大学地理学科(2010 年 9 月 3 日)			
ネットワ ーク運 営 基盤確 立	第 8 回生態水工学国際シンポジウム ISE2010 にて ARRN 広報活動 (2010 年 9 月 13 日～16 日) 韓国・ソウル市			
	第 13 回国際河川シンポジウムにて ARRN 広報活動 (2010 年 10 月 11 日～14 日) オーストラリア・パース市			

(JRRN 事務局 和田彰)

會員寄稿記事(1)

「台灣河川再生ネットワーク(TRRN)」ホームページリニューアルのご案内

寄稿者：王淑如 Wang Shu-ju (TRRN 事務局員・台湾經濟部水利署水利規劃試驗所 WRAP)

【1】はじめに

地球温暖化による極端な気候変化は、洪水や干ばつなどの災害を世界の各地にもたらし、経済発展の中にあつて、人間と自然の関わり方は如何にあるべきかについて、各国政府は改めて考え始めています。

台湾は、地形的に中央山脈の影響を受け、一般に河川は短く、また勾配が急であり、豊水期と渇水期の河川の様子は極端に異なることから、河川の管理が非常に厳しい特徴があります。

台湾經濟部水利署は、河川管理の台湾での統轄機関として、近年は積極的に生態に配慮した川づくりを導入するだけでなく、これまでの河川整備計画に関わる資料や基礎データを体系的に整理し、台湾河川再生事業のデータベースの役割を担うことを目的として「台湾河川再生ネットワーク (TRRN)」を設立しました。

これまでは、河川再生に関わる基礎資料は県や市などの水利管理部門や河川部門のみが所有していましたが、今回のホームページのリニューアルは、こうした情報を公開し、また民間組織の活動内容を取り込んでいくことを目的に実施しました。

【2】ホームページの利用者

本ホームページは、河川再生に関わる「政府機関」「民間組織」そして「一般人」の3方向への情報発信を想定しています。

水利署は、本ホームページを通じて、関連ニュースや河川再生成果、また研究成果や統計データ、河川再生の考え方などを社会に普及することができます。

民間組織(大学、研究機関、NGO等)は、本ホームページを通じ、それぞれの活動や研修会の報告、コラムや論文を発表することが可能です。事前に許可を得たNGO組織は、本ホームページを通じて、様々なテーマに関する議論の場(フォーラム)を設け、モデレータとなってテーマ別のコミュニティを構築することも可能です。

また一般の方々に対しては、RSS方式で情報を提供したり、定期的にイベントを開催し、河川再生の取り組みに簡単に参加できる機会を提供します。例えば本ホームページをリニューアル後に開催した「河川撮影コンテスト」では16,000人の方々が参加しました。



URL: <http://trrn.wra.gov.tw>

【3】 サイトコンセプトの伝え方

本ホームページのトップ画面にアクセスすると、はじめにFlash 動画で、河川再生の理念が表示されます。すなわち、本サイトのコンセプトでもある「適切な方法で河川を再生し、人間活動によって失われた生態環境を取り戻し、環境の質の向上を目指します」というメッセージを冒頭で伝えています。

またこのFlash 動画は4つの画面に分かれており、人と河川の4つの関係を説明しています。

1. 川は人と生物にとって共有の生命源である
2. 旧来の河川整備・工事では河川生態を消失させてしまった
3. 現在は自然を尊重した生態に配慮した河川整備を導入した
4. 生物の生息地と合わせて、人と川の触れ合いの場を創造する



冒頭の動画のトップ画面



冒頭の動画の4枚目

【4】 ホームページの機能の紹介

本ホームページは、河川再生に関わるニュース、台湾の河川紹介、台湾国内及び海外の河川再生事例集、講演会等の行事、及び関係出版物で構成されています。特に「川とともに」の中の、これまで実施した河川再生事業の再生方法とその写真は、その川のエピソードや地域のボランティア活動、及び現在の様子を合わせて掲載しています。一般の方々に再生河川の変化の様子を感じて頂ける様な工夫を凝らしています。



サイトマップ

【5】 今後の期待

今回の「台湾河川再生ネットワーク」ホームページのリニューアルは、全体計画の第一歩に過ぎません。河川再生に関わる知識、技術、及び活動の情報発信により、今後さらに多くの方々がこのホームページを利用し、情報交換を行い、河川再生の理念が一般の方々の日常生活にまで浸透することを目指しています。河川再生は全民参加の環境保護活動であるということが、台湾全体に理解されることを願っています。

※本記事は、台湾語でご寄稿頂いた原稿を、JRRN 事務局が和訳したものです。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

水辺からのメッセージ No.20

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

日本人の手による初の大土木事業： 湖水の恵みを受けて 120 年：京都の近代化を支えた琵琶湖第一疏水の第1トンネル



撮影：2010年12月（滋賀県大津市第一疏水トンネル入口）

◆京都近代化を支えた水の恵み

京都市内の灌漑、上水道、水運などを目的とする琵琶湖疏水計画は若手土木技術者の田邊朔郎の指導により、第一疏水が1890年に竣工開通、その後、まかないきれぬ電力需要に対応して、第二疏水は1912年に完成しています。

◆市民に愛される土木施設として

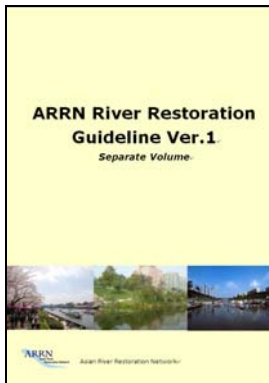
疏水のいたるところにサクラやモミジの植栽で美しい風景資産として演出されています。土木の設計者自らが“用・強・美”を理解することがいかに大事であるかを知らされます。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

研究・事例紹介

「ARRN 河川再生ガイドライン ver.1 別冊」(英語版)のご案内

「ARRN 河川再生ガイドライン ver.1 別冊」(英語版)が完成いたしましたのでご案内いたします。



【Contents】

■The geographical features of each country and changes in river environment improvement

- Rivers in China
- Rivers in Korea
- Rivers in Japan

■case studies of river restoration

[In China]

- Xinjiangtang stream
- Zhuanhe River

[In Korea]

- Chunggye-Stream
- Osan Stream
- Yangjae Stream

[In Japan]

- Sumida River
- Izumi River 19
- Kushiro River

[In Thailand]

- Mae Nam Phichit (Phichit River)

[In The UK]

- River Skerne

[In The US]

- Kissimmee River

■About ARRN

ARRN では、「アジアモンスーン地域で利用できる『河川再生ガイドライン』を構築し、ネットワーク参加者の知識・技術の向上を図る」を柱の1つとして活動しています。これは、ARRN 設立の契機となった「第4回世界水フォーラム(2006年3月)」の分科会における提言に基づくものです。

2009年3月に『河川再生ガイドライン』として「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1」を発刊し(当号7ページ「冊子・ビデオ等の紹介」参照)、その後もARRN技術委員会や運営会議においてガイドラインのバージョンアップについて議論を行っています。

多くの追加すべき事項の中で、今回は「各国の地理的特徴と河川環境改善の変遷」及び「各国の河川再生事例」を整理し、「ARRN 河川再生ガイドライン ver.1 別冊」としてまとめました。両項目共にARRNの事務局である日本、中国、韓国の事項を中心に掲載し、「各国の河川再生事例」では、イギリスとアメリカの事例も掲載し、またタイ天然資源環境省水資源局のご協力もいただき、1事例を掲載しました。

ARRNでは、“アジア”で利用できるガイドラインの構築を目指していますが、もちろん国によって異なることも多くあります。共通部分だけではなく、異なる部分を知ることが重要であり、日本、中国、韓国以外の情報を追加していくことも今後の課題です。また、2010年9月14日に開催したARRNラウンドテーブル会議においてもガイドライン構築に向けた議論が行われました。

ガイドラインは常に新しく更新されるものであり、これまでの議論や提案をもとに今後は「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」の企画・作成に取り組んでいきます。

※ダウンロードは以下のURLから(英語版のみ)

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNguideline1-separatevol.pdf>

(JRRN事務局 沼田彩友美)

会議・イベント案内 (2011年1月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

第8回 JRRN 河川環境ミニ講座 (現在企画中)

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■ 川底からの河川再生～もうひとつの川の流れ

○日時：2011年1月16日(日) 13:00～16:40

○会場：かでの2・7 札幌市中央区

○主催：北海道淡水魚保護ネットワーク

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2498.html>

■ 第152回 河川文化を語る会『川底から理解する河川環境』

○日時：2011年1月17日(月) 18:00～20:00

○会場：厚生会館(全国土木建築健保)

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2448.html>

■ 河川生態学術研究会 多摩川研究グループ 第1回研究発表会

○日時：2011年1月20日(木) 13:00～17:25

○会場：福生市民会館小ホール(つつじホール)

○主催：河川生態学術研究会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2480.html>

■ 平成22年度 川に学ぶ全国事例発表会

○日時：2011年1月28日(金) 10:00-17:10

○会場：河川環境管理財団 3階 第1・第2会議室

○主催：子どもの水辺サポートセンタ

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2438.html>

■ 第六回 外来魚情報交換会

○日時：2011年1月29日(土)～30日(日)

○会場：草津市立まちづくりセンター

○主催：琵琶湖を戻す会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2436.html>

■ 第153回 河川文化を語る会『地域の水環境研究から発展した国内外との教育連携』

○日時：2011年2月14日(月) 18:00～20:00

○会場：厚生会館(全国土木建築健保)

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2449.html>

■ 第154回 河川文化を語る会『両河の賜物～ユーフラテス河とティグリス河が育んだ古代メソポタミア文明』

○日時：2011年3月15日(火) 18:00～20:00

○会場：厚生会館(全国土木建築健保)

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2486.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 (2009.3 発刊)

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・価格：無料



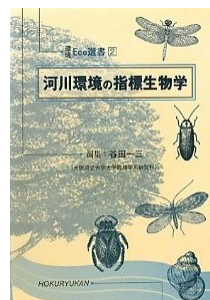
ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 環境Eco選書2 河川環境の指標生物学 (2010.12 発刊)

- ・著者：谷田一三 (JRRN 会員)
- ・出版社：北隆館
- ・発行年月：2010年12月
- ・価格：¥3,150円
- ・ISBN：978-4-8326-0722-4



本書では、河川の生物指標として昆虫類や昆虫以外の無脊椎動物を扱うとともに、水質環境と生物指標の関係、また河川における生物指標の調査や実習の方法などを紹介しています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

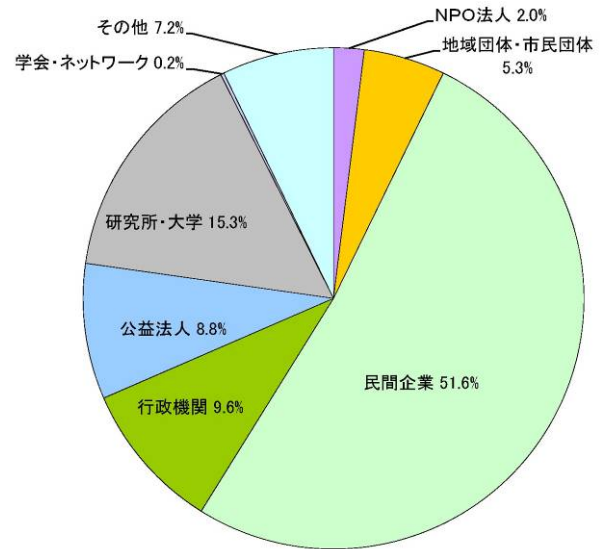
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>




2010年12月27日時点の個人会員構成
(個人会員数：461名、団体会員数：24団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
財団法人リバーフロント整備センター 内
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階(旧ロフテー中央ビル)
Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センターと(株)建設技術研究所が運営を担っています。